

四小だより

令和元年10月 3日号



いちょう

山形市立第四小学校
校長 鈴木 一 尋
<児童数 214名>

〒990-0055 山形市相生町4番37号 TEL 623-6019 FAX 633-9321

第108回創立記念式

令和元年10月1日、たくさんのご来賓の皆様をお迎えして、本校の創立108周年記念式を挙行いたしました。国歌・校歌斉唱、校長式辞、奨学会長様と同窓会長様の祝辞、6年児童代表あいさつ、全校児童による歌「いちょうの子ども」と式がつづきました。式の中で、この3月でご退任された前交通指導員の菅江様に感謝状と研学会より御礼をお渡しいたしました。菅江様は50年間子どもたちの通学を見守って下さいました。

また、式に先立って、来賓控え室におきまして、第60代奨学会長福島宏一様と第61代奨学会長高田元様の掲額式を行いました。



(校長式辞より 抜粋)

1944年、明治44年に私たちの学校、山形市立第四小学校は生まれました。今日は108回目の創立記念日です。

私は、昨年の107回創立記念式で、今からおよそ50年前の朝日小学生新聞に載った四小の記事の紹介しました。

「ぼくたちの学校の自慢は、なんといっても校庭の片隅に立っているイチョウの大木です。このイチョウは、学校ができる前からあったそうです。高さは25メートル、根元の回りは4メートルほどあります。」大いちょうは長い間、第四小学校を、そして、第四小学校の子どもたちを見守ってくれています。

今年の8月21日、大いちょうの枝切りをしました。剪定といいます。しばらく枝切りをしていなかったなので、大いちょうは四方八方に大きく枝を広げ、アリーナの屋根にもたくさんの葉と実を落とすようになりました。屋根を守るために、毎年、技能技師さんたちがアリーナの屋根に上がり、落ち葉や実を取ってくださっていたのです。高いところでとても危険でたいへんな仕事でした。また、台風など強い風が吹くと大いちょうは枯れ枝を周りに落としたり、ゴーゴーと大きな音を立てて木全体を揺らしたりして、近所の方を不安にさせることも少なくありませんでした。

大きな幹がアリーナ側へ傾いてきているのも気がかりの一つでした。しかし、大いちょうは高さが25メートルもあり、梯子車のような作業車がないと枝を切ることはできません。教育委員会に毎年お願いをして、ようやく、8月21日に高所作業車を呼び、剪定をすることができました。

剪定の目的を4つ紹介します。一つ、「木の形を整える」。伸び放題に伸びた枝を整え、格好よくすること。人と言えば床屋さんみたいなものです。二つ目は、実のつきをよくする。実が多くつきすぎると、一つ一つの実は小さくなります。逆に数を減らすと実は大きくなるのです。ここ数年は大いちょうの実が小さくなっていました。三つ目、病気を防ぐ。枝を切ると風通しがよくなり、日光もよく当たり、病気になりにくくなるのです。四つ目、「若返り」をさせる。枝を切ると、そこに「新芽」(新しい芽)が出て、その芽が新しい枝になっていきます。木が若返えるのです。剪定は、木の元気を取り戻すためになくてはならない作業なのです。

私たちの学校のシンボル大いちょうも、これからもっともっと元気になり、春には鮮やかな緑の若葉をつけ、夏には気持ちのよい木陰をつくり、秋には黄色い大きな実をつけ、冬にはキラキラと雪化粧をして、これまでの230年間と変わらず私たちを見守ってくれるはずです。そんな大いちょうに負けないよう、ここにいる214名のいちょうの子は、学校の目標にある、心の豊かな子ども、健康でたくましい子ども、意欲的に考える子どもをめざして、前へ進んでいくことを108回目の創立記念式の今日、心に刻んで欲しいと思っています。

最後になります。ご来賓の皆様、地域の皆様には、今後ともこの第四小学校と第四小学校の子どもたちを見守り支えていただきますことをお願い申し上げまして、式辞といたします。

公開研究会へのご協力 ありがとうございました。

10月2日、山形市教育委員会委嘱の公開研究会を行いました。300名近い先生方を集め、四小の子どもたちの学習のようすを見ていただきました。1年生から6年生まで成長の跡を見ていただき、授業後の話し合いも活発に行われました。

この研究会を行うに当たり、9月の校舎内清掃や当日のさまざまな係と保護者の皆様にはたくさんのご協力をいただきました。ありがとうございました。

